

第6回 毛髪科学技術者協会 研究発表会報告

平成 21 年に第 1 回を開催した研究発表会ですが、回を追うごとに参加者を増やし、平成 27 年 2 月 4 日、東京ガーデンパレスで開催した今回は 243 名の皆様に参加いただき、盛況の内に終了することができました。ご参加いただきました皆様、パネラーや発表者の皆様、本当に有難うございました。

午前中の第 1 部は、昨年も企画した「ヘアカラーの未来」をテーマとしたパネルディスカッションの続編で、今回はサブテーマを「温故知新・海外動向、製品開発の変遷から学ぶ」として千葉科学大学の辻野教授の進行で、ヘアカラーメーカーの第一線でご活躍中のパネラーの皆様にディスカッションしていただきました。「温故知新」の言葉通り、各社の貴重な資料を用いて容器や剤型の歴史を振り返っていただき、「海外動向」については EU からアジアまで、日本のヘアカラーとの相違点を分かりやすく説明いただきました。

午後の第 2 部の研究発表は、まず、美容師への情報発信や執筆活動など、ますますご活躍の幅を広げておられる新井幸三先生に「チオグリコール酸パーマネントウェーブ処理による毛髪内 SS 結合の切断と再生機構」と題して研究発表いただき、更に下記の発表者の皆様に日頃のご研究の成果を発表いただきました。今回も「毛髪科学」という分野の下で産学揃っての研究発表会を開催できたことに、発表者の皆様はもちろん、活発な質問をしていただきました座長の皆様、会場の参加者の皆様に感謝申し上げます。

その後の懇親会で乾杯のご発声をいただいた新井幸三先生の「これまでの経験を伝えることで皆様の一助となれば」という一言は、MGK としても共通の思いであり、今後とも会

員の皆様のお役にたてる企画を開催していきたいと思

います。
(文責：村田)

【研究発表者一覧】

- 「高純度モノアルキルリン酸塩の会合挙動と化粧品への応用」
株式会社コスモステクニカルセンター 田中佳祐氏
- 「酸化染料染色における繊維表面溶液層での染料分解反応の寄与」
椋山女学園大学 桑原里実氏
- 「D 相乳化法で作成した化粧品用乳化物の特性と毛髪への効果」
日本ロレアル株式会社 続佐紀氏
- 「対イオンをタウリン塩としたアミノ酸系界面活性剤の特性」
日油株式会社 松尾諭氏
- 「ラメラ液晶のヘア製品への応用とその特性」
日本ロレアル株式会社 三宅志穂氏
- 「白髪と黒髪における最新の知見について」
株式会社ミルボン 長野庸一氏
- 「毛髪のパーマ処理におよぼす還元剤の影響」
群馬大学 瀧上昭治氏
- 「パーマネントウェーブセット性とウォーターセット性との関係」
椋山女学園大学 上甲恭平氏